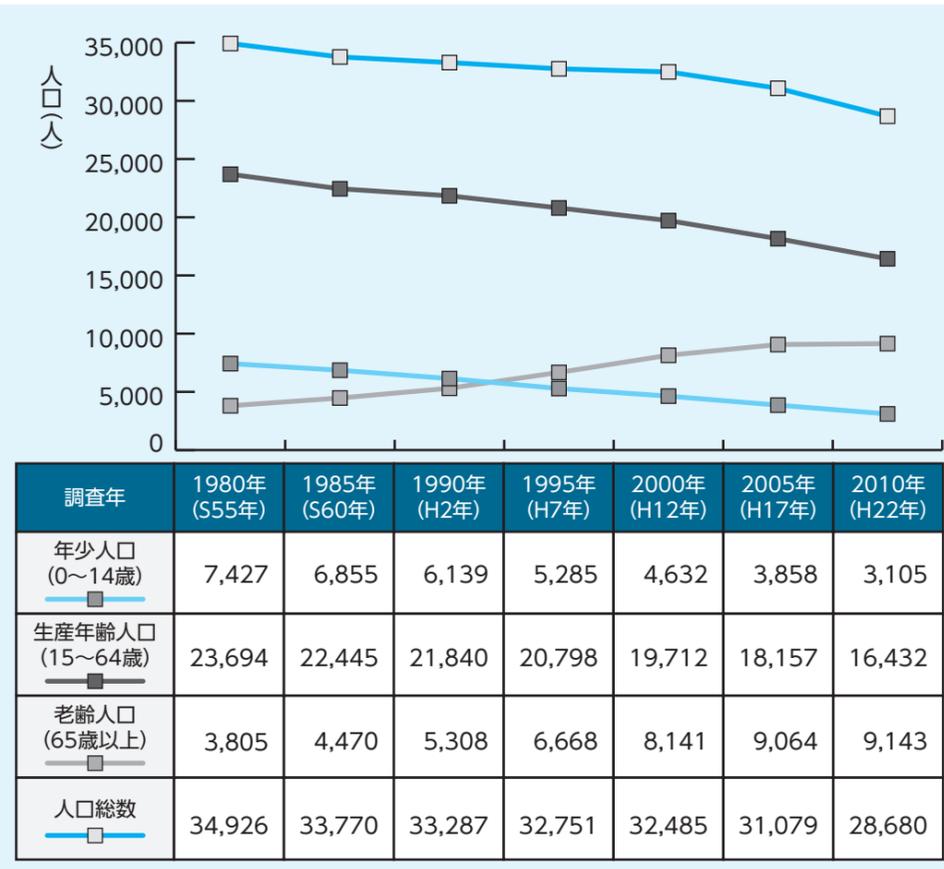


表1 市の人口に関する国勢調査の結果(調査年のSは昭和、Hは平成を表す)



〈市の人口減少の現状〉

表1は、昭和55年以降の市の人口に関する国勢調査の結果を示しています。これを見ると、総人口は減少し続けており、平成17年から22年にかけてさらに減少が進んでいます。グラフが示すとおり、総人口の減少に比例して、15歳未満(年少)人口および15歳から64歳まで(生産年齢)の人口が減少しており、これらの年代の減少が大きな課題となっています。65歳以上の人口については、1995(平成7)年を境に年少人口を超えており、高齢者の比率がより高くなっていくことがうかがえます。

〈自然動態と社会動態〉

この人口減少は、出生数と死亡数

〈基本構想を策定中〉

基本構想では、市を取り巻く環境などを整理。市が抱える課題への対応について、方向性、方針を定め、

昭和60年と平成17年を比較してみても、自然動態・社会動態は、ともに減少が進み、最近では、1年で約400人減少しており、人口減少の要因となっています。

昭和60年と平成17年を比較してみても、自然動態・社会動態は、ともに減少が進み、最近では、1年で約400人減少しており、人口減少の要因となっています。

これから策定する5カ年の基本計画に明記します。

〈八幡平市の将来像〉

現在の基本構想では、市の将来像を「農と輝の大地」と定め、農業、観光、商工業などの産業の発展と、人々が「結の精神」で連携・協働する姿を目指してきました。

この将来像は、次期基本構想に「農

と輝の大地」を継承することを含めて検討するとともに、副題の「岩手山・八幡平・安比高原の恵みに満ちた、交流新拠点をめざして」については、今後の主要施策などの状況を踏まえ、新たなものへの変更を検討しています。

詳しくは、市役所市長公室総合政策係 ☎ 内線1202、1203、1211まで。

表2 県人口移動報告年報の自然動態と社会動態の動向

調査年	1985年 (昭和60年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)
自然動態	出生者数	361	202	164	168	149	131
	死亡者数	253	372	404	390	408	373
	増減数	103	-170	-240	-222	-259	-242
社会動態	転入者数	1,189	754	639	563	537	576
	転出者数	1,474	988	849	727	768	742
	増減数	-285	-234	-210	-164	-231	-166

八幡平市市民憲章 (平成18年11月3日制定)

八幡平市は、岩手山・八幡平・安比高原の裾野に広がる大自然に恵まれた農(みのり)と輝(ひかり)の大地です。わたくしたちは、心をつなげて、お互いの幸せを願い、ここに市民憲章を定めます。

- 1、わたくしたちは、自然をはぐくみ、景観にすぐれたまちをつくりまします。
- 1、わたくしたちは、心身をきたえ、活力にみちたまちをつくりまします。
- 1、わたくしたちは、ふれあいを大切に、人情あふれるまちをつくりまします。
- 1、わたくしたちは、共に学び働き、暮らしのゆたかなまちをつくりまします。
- 1、わたくしたちは、限りない未来に向け、希望にもえるまちをつくりまします。

す。特に、前述の人口減少は大きな課題です。

このため、「安心して子育てができるまち」「住んでみたいと思うまち」「共助によるコミュニティ活動」などの子育てや定住・移住、コミュニティ(集落)の維持などの取り組みを重点として基本構想の内容を検討しています。

具体的な施策や主な事業などは、

まちづくりアンケートの結果をお知らせします

平成27年3月に行った「まちづくりアンケート」について、今月号は、住みやすさや政策に関する結果をご紹介します。

住みやすさの結果は、住みやすいと思う人がそう思わない人を上回っています。政策に関する設問では「どのようなことをしているのかが分からない」というご意見もありました。

実施している内容については、広報などを通じてお知らせし、各政策に満足と思う人が増えていくよう努めます。

■住みやすさおよび政策に関するアンケート結果 (単位は%)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

